大学間交流会について（報告）

【開催日時】2019 年 12 月 7 日　14:00～17:00
【場所】羽田空港 JAL メインテナンスセンター
【参加者】学生 22 名、教授 1 名（内応用物理会員 10 名）
【目的】
　航空機の製造に使われている技術や空港での仕事内容、機体整備などを学ぶことを目的とした。我々は航空機を利用する立場であることが多いため、空路によってどの航空機が適切であるか、利用者が航空券を購入してか目的地に到着するまでどのような仕事がなされているかなど知らないことが多い。利用する人にとってもこれから就職活動を控えている学生にとっても上記のことを学ぶ機会は非常に貴重なものである。そのため今回は、羽田空港 JAL メインテナンスセンターの見学を行った。

【内容・結果】
　見学は航空教室・展示エリア・格納庫見学の三つのコースに分けられていた。航空教室では、元パイロットの方から航空機が離陸してから着陸するまでに使用されている技術や、航空機が効率よく離着陸できるように滑走路をどのように管理しているか、人々が快適に航空機を利用するためにどのような工夫がなされているかなどの説明をして頂き、参加者は熱心に聞いている様子が見て取れた。また、展示エリアではコックピットの展示や過去にパイロットが使用していた計測機器などの展示があり、航空機で使用されている技術を直に見ることができた。最後の格納庫見学では、実際に整備士が働いている現場に行き職員の説明を真剣に聞きながらも、気になった箇所があれば学生も積極的に質問をしている様子が見て取れた。また新しい航空機の特徴などの説明もして頂いたので、使用されている最新の技術や最近の航空機のトレンドなどを直に見て学ぶことが出来た。

【まとめ】

今回の見学で、航空機を利用する我々にとって普段知ることのできない空港の仕事の裏側を知ることができ有意義な時間を過ごすことができた。また、異なる大学・研究室で航空機について議論している様子や今後のお互いの進路を語り合う様子なども見て取れた。以上から、航空機に関する知見を広めることができ、大学・研究室を超えた学生のネットワークを強めることが出来た。

航空教室の様子

格納庫見学の様子

集合写真（撮影者 1 名除く）